

健康メモ

健診が変わります

広島市医師会副会長
厚生堂長崎病院院長 長崎孝太郎

2008年の

4月から定期健康診断が変わることになっていきます。内臓脂肪



の蓄積による肥満が、生活習慣病になり易いため、生活習慣改善指導を行い、事前に病気の発症を防ごうという狙いの制度改正が決まっています。今までは会社、企業が健診を行っているのですが、これからは医療保険の保険者（企業の健康保険組合、市町村の国民保険や社会保険事務局など）が、四〇歳から七四歳までの

加入者全員を対象に健診を行うことになります。これまで健診を受ける機会のなかった専業主婦の人も扶養家族として加入している保険者の責任において健診を行わなければなりません。

今回始まる健診はメタボリック症候群を重視したものに変わります。メタボリック症候群は、以前は「内臓肥満症候群」とか「死の四重奏（へそ周り）」が男性で八五〇、女性で九〇〇以上ある場合、内臓の脂肪（皮下脂肪でなくお腹の中にある脂肪）が多く蓄積されているというデータに基づき、腹囲がそれ以上の人で高脂血症、高血圧、高血糖のうち二つ以上ある人をいいます。メタボリック症候群の人は動脈硬化が進みやすく、心筋梗塞、狭心症や脳卒中が発症し易く、そうでない人の二〜三倍以上と言われています。それを早期

に発見し、事前の予防が大切です。新健診では、腹囲の測定が加わります。今まで以上に肥満に対し厳しくなる反面、肥満以外の人の異常は軽視される傾向になることも危うがされています。新健診でも、これまでの職場検診と同様、がん検診は含まれていません。また、新健診では腹囲が基準以上であったり、血圧や中性脂肪の数値が高い場合は、三〜六カ月の生活改善のための保健指導運動や栄養の指導を受けるようになります。これまでは病気を発見することが主体の健診から、病気の予防を主眼とした健診に変わります。

まだ具体的に詳しいことは、決まっていますが、来年度の春から変わることが決まっています。今まで医療機関で受けられていた健診がそのまま継続できるように広島市医師会では情報を収集し、医療機関を支援する予定になっております。